

中学校 第3学年

B 食生活と自立「伝統的な食文化を継承しよう」

一ノ瀬 孝恵

教 材 B 食生活と自立「伝統的な食文化を継承しよう」
目 標 ソバの特徴や世界のソバ料理について体験的に理解させ、地域や家庭で変わることなく作られる料理があることの意義を考えさせることで、知恵を磨き、伝統食を新たに次世代へと繋げる力を育成する。

指導計画

(1)	植物としてのソバ，食物としてのソバを知ろう・・・	1時間	
(2)	世界のソバ料理，日本のソバ料理を調査しよう・・・	1時間	+課外
(3)	「世界のソバ料理」と食文化を知ろう・・・・・・・・	2時間	
(4)	ソバ料理，ソバ打ち体験をしよう・・・・・・・・	4時間	+課外
(5)	伝統的な食文化を継承しよう・・・・・・・・	4時間	(本時3／4)
		計	12時間 +課外

授業について

中学校学習指導要領「技術・家庭」家庭分野の内容には「地域の食材を生かすなどの調理を通して地域の食文化について理解すること」、その取り扱いについては「調理実習を中心とし主として地域又は季節の食材を利用することの意義について扱うこと。また、地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできること。」とある。そこで、生活体験の少ない生徒たちに、「世界のソバ料理」を切り口にしてグローバルな観点から食文化を捉え、日本の食文化を体験的に理解させ、伝統食についての理解を深めさせ、継承について考えさせる授業を構築することとした。

一連の授業の流れは次のとおりである。まず、ソバはどのような植物なのかを知らせ、ソバを使用した世界と日本の伝統食にスポットをあて、ソバが家庭の台所の中でどのように位置づいているか書物を通して調査させたり、「世界のソバ料理」に詳しい株式会社イナサワ商店会長稲澤敏行様を講師としてお招きし、「ソバという植物，作物」をテーマにご講演いただくことで、世界中の伝統的ソバ料理とその文化的背景を生徒に考えさせた。続いて、日本の伝統食，行事食である年越しソバやそばがきに注目して、簡単でおいしいソバができるソバ打ち方法で調理体験をさせ、夏休みには、各家庭にもご協力いただきソバ料理に挑戦していただいた。さらに、広島そば打ち倶楽部会長の前浜静男様，佳代子様のご指導のもと、伝統的ソバ打ち体験をさせた。

本授業では、ソバを中心に調査し体験してきたことをまとめて、グループ相互で紹介し合い、伝統食の継承について提案する。授業を通して、生徒一人ひとりの知識や理解がつながり、思考が深まることで伝えていきたい伝統食が表現できるようになることを目的とした。

本時の題目 「伝統的な食文化を継承しよう」

本時の学習目標

伝統食の継承についてグループの考えを提案し、伝えていきたい日本の伝統食を考えることができる。

本時の評価規準（観点／方法）

ソバを通して考えてきた食文化・伝統食について仲間と意見交換をし、未来に伝えたい料理を表現できる。(思考・判断・表現)

本時の学習指導過程

学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点・評価
【導入】 学習内容の確認 【展開】 ソバ打ち披露 意見交換 伝統食の継承とは 未来に繋ぐ伝統食 【まとめ】	○5人1グループで着席する。 ○本時の学習目標と内容の確認をする。 ・リーダーを中心に前時までの学習を振り返る。 ○代表生徒が伝統的なソバ打ちと簡単なソバ打ちを一部披露する。 ・伝統食としてソバの価値を高めるにはどのようなことが必要か再確認する。 ○リーダーはその場に残り、他の4名はそれぞれ分かれて他グループを訪れ、伝統食について意見交換する。 ・意見交換をしながら、見聞したことを書きとめる。 ○新たなグループに移動し、意見交換を行う。 ○自分のグループに戻り、新たに得た内容を確認し合う。 ○伝えていきたい伝統食について考えをまとめる。 ○課題を確認する。 ・未来に繋ぐ伝統食のレシピづくり	○座席の確認 ・伝統食についてグループで自分たちの考えをまとめている。 ◎2つのソバ打ちから、気づいたことを再確認している。 ◎伝統食はどのように継承されるべきか考えようとしている。 ○7分経過したら、生徒に新たなグループに移動するよう指示する。 ◎自分のグループで新たな視点をもとに話しあっている。 ◎自分の考えをまとめ発表する。 ○課題の確認
<備考> ソバと食のワークシート40枚、そば粉、ソバ打ち道具一式 ホワイトボードシート、ホワイトボード用ペン、プロジェクター タイマー		

3 反省と課題

ソバをとおして伝統食の継承を考える学習における事後アンケートから、生徒のソバに対するイメージは大きく広がり、書籍を使用した調査活動やソバ打ち体験、さらにゲストティーチャーによる講演授業の効果が非常に高かったことが確認できた。ほとんどの生徒が、伝統食とはどのようなものかを考えることができ、どのように継承すべきか自分の考えをまとめることができたことと肯定しており、学習により理解したことをふまえて、しっかりと考えられた自由記述からも、思考の深まりを見てとることができた。しかしながら、本授業において、生徒たちの話し合いがきちんと行われ、その結果を各グループに配布したミニホワイトボードに書かせたにもかかわらず、まとめの発表をさせることなく、個人の考えのみをまとめて発表させることになってしまい、考えの共有が不十分となったことは反省すべき点である。今後、さらに、主体的かつ対話的な学びから、生徒たちの学びの深化を図り、これからの生活に応用できる力が身につく授業を工夫したい。